



ブルネイ・ダルサラーム大学

Universiti Brunei Darussalam

●学部学生 約3,000人 ●大学院生 約770人 ●教員 約470人 ●留学生 約370人

ホームページ <http://www.ubd.edu.bn/>

交流協定締結年月日：2009年11月8日 主管学部：医学部



国際交流の特色

ブルネイ・ダルサラーム大学（UBD）は、1985年に設立された総合大学である。学位取得コースは、国民及び外国人に開かれていて、政府による奨学金制度（教科書や交通機関及び宿泊費）が、ブルネイ国民に授与されている。1989年に最初の卒業生を送り出し、現在のツング・リンクのキャンパスは、1995年9月に正式にオープンした。医学部では英語での、Problem Based Learning（PBL）を主体としたチュートリアル中心の基礎教育を3年間行い、その後3-4年は英国、カナダ、オーストラリアの各大学医学部に編入し、臨床教育を受けて医師免許を取得する。2009年には大学間協定が結ばれ、さらに医学部とブルネイ国保健省との国際協力協定が結ばれた。特に医学部では、本学医学部との双方向性の学生交流が積極的に行われ、実績が積み重ねられている。

交流実績（平成27年度～29年度）

年度	H27	H28	H29
受入・派遣			
学生の受入	15	16	15
学生の派遣	8	10	15
研究者・職員の受入	6	12	1
研究者・職員の派遣	9	2	2



教員からの声

ブルネイ国はアジアでも最も英語能力が優れ、治安が良く、政治的、経済的にも安定したイスラム教王国です。ここでの学習は、国際的な視野を持った医師の教育に適切であり、将来の香川大学との連携を中心にアジアで活躍するリーダーの育成に有用だと考えられます。

UBD医学部では英国式医学教育としてProblem-Based Learningが体験できます。2006年には医学部間協定を結び、香川大学の医学部生のための夏季医学教育コース（4-5週間）に参加開始、2017年度（11期）には8名の学生が参加しました。また同年に香川大学でのWinter ProgramにUBD医学部学生8名が参加、7名が基礎医学実習に参加し双方向的な交流が出来ており、更には学部間から大学間協力へと交流が広がっています。

（小児科学講座教授）日下 隆

学生からの声

ブルネイ・ダルサラームでの夏学校において、どうして留学が学生のためになるかははっきり分かりました。そこで過ごした数週間はとても有意義な経験でした。

ブルネイはボルネオ島にある小さいイスラム教の王国です。文化は日本とは全く別なもので、その文化の中で生活をしていました。慣れてない言語で授業を受け、聞いたこともない食べ物を食べ、新しいことに順応しながら毎日を過ごしました。他の国なら厳しかったかもしれませんが、UBDの学生がとても親切に案内してくれたおかげで、苦労することなくブルネイの文化を体験できました。

勿論、医学教育の文化にも差があります。UBDではイギリスのロンドン大学で行われている様式で、理論的な講義より実践的な症例提示で医学生を養成しています。臨床手技も低学年から身につけています。その環境に入り、模擬患者を診察したり、最新の技術を使った救急医療シナリオの練習をできたり、UBDの学生と教員の丁寧な指導を受けながら実用的な医療教育を受けました。

ブルネイでこんな多様な経験をできたからこそ将来自信をもって医学生として海外に行けます。国際交流と医学教育が両方とも充実した、思い出深い経験でした。

（医学科4年）パラマ ジョン 賢一